会　議　録（概要）

会議の名称	令和８度　香南市地域包括支援センター運営協議会
開催日時	令和８年 10 月８日（木）　19：00 開会　20：00 閉会
場　　所	香南市役所　６階　604.605
議　　題	会長・副会長の選任 (1)地域包括支援センター業務について ①令和７年度実績及び令和８年度地域支援事業計画 ②指定介護予防支援事業業務 (2)その他
出席状況	地域包括支援センター運営協議会委員（11 名） 事務局（9 名）
会議資料	(1)令和８年度香南市地域包括支援センター運営協議会 (2)資料１地域支援事業令和７年度実績及び令和８年度事業計画 (3)追加資料 R8 年度自主運動グループ支援事業リハビリ職よる巡回支援
傍聴人の数	０人
備　　考	なし

会議の概要（発言の要旨）
議題・発言・結果等

1.開会

あいさつ（高齢者介護課長）

2.会長・副会長選任

（会長）　　香美郡医師会　佐藤　幸治　氏

（副会長）　　高知県香美香南歯科医師会　乾　大紀　氏

1.議　題　　進行：会長

(1)地域包括支援センター業務について

①令和７年度実績及び令和８年度地域支援事業計画

②指定介護予防支援業務

事務局から説明

令和８年度地域包括支援センター運営協議会、資料１、追加資料

報告内容について特に意見なし

2.質疑応答

【質問１：委員①】地域包括支援センター運営に係る予算について

財源の割合は全国統一のものか

【回答】

基本全国統一

【質問２：委員②】　認知症サポーター養成講座の具体的な内容について

中高生向けのサポーター養成講座について具体的な実施校、対象学年、実施内容の詳細を求めた。

【回答】

・実施校：夜須中学校、城山高校
・実施形式：座学ではなくロールプレイングを中心に実施
・具体的場面：「切符購入に困っている高齢者への声かけ方」を題材として、高齢者が安心する対応方法を学習
・城山高校での展開：１年生全員：一般的な認知症理解、２年生福祉コース：いきいきクラブとの交流を含めた講座実施
・今後の展開：別の中学校への訪問も検討中

【質問３：委員②】人権教育との連携の可能性について

・人権擁護委員も参画し、認知症サポーター養成講座と人権教室を連携させたい
・既存の人権教育の枠組みを活かしながら、認知症理解と高齢者への思いやりを統合的に学べる機会を作りたい
・学校側からの相談があれば、人権擁護委員としてもサポートしたい
・提案：人権擁護委員も参画し、今後の連携活動を希望

【回答】
多様な運営方法について一緒に検討していく。

【質問４：委員④】　フレイルリスク把握事業の数値変化について
フレイルチェック個所数が減少している一方で該当者割合が上昇した理由は何か。

【回答】
・対象を絞り込んだため（お達者教室・楽習広場など継続実施事業の参加者に限定）
・参加者平均年齢が高い（お達者教室 88 歳など）ため、身体的フレイル該当者が必然的に多い
・ハイリスク層への重点的な取組のため、パーセンテージが変動している
・参加者にオーラルフレイルなどの複数課題があり、対象を絞った評価が必要

【総括発言】会長による問題提起
主な現状の課題を提起
①社会的孤立の現実
・多くの高齢者が「特に何もしていない」という現実がある
・何もしていないままでは、必ず衰弱・フレイルに陥る
②高齢男性の問題
・特に男性の高齢者が「何もしていない」傾向が顕著
・これが極めて深刻な課題である
③必要な支援内容
・遊びに行く、街に出かける、友人と交流するなど、積極的な活動と交流が不可欠
・心身機能の維持には、社会的つながりが重要
④市の事業実施と市民認知のギャップ
・香南市は多くの介護予防・フレイル対策事業を実施している
・しかし、市民がこれらの事業の存在を知らない、理解していない
・「こんなことをやっているよ」というアピール（周知・啓発）が不足している
⑤相談窓口の認識向上の必要性
・困ったときに「どこに相談したらいいか」を知らない市民が多い
・相談窓口の存在と役割を、もっと認知させる必要がある
⑥継続性の確保
・現在の支援活動が一時的な取組で終わらないよう、継続的な体制を構築すること
・市民が常にアクセスできる支援体制が必要

４ 閉会

以上